

クエン酸類価格改定情報

弊社にアナウンスが入ったメーカーからの情報を抜粋して記載致します。

(抜粋情報)

原料のトウモロコシ価格の高騰、当面高値で推移する見通しに加え、副資材(硫酸等)の値上がりも顕著であり、原料事情は不安定な状況となっています。

また、中国のクエン酸類製造メーカー各社は輸出を中心に需要が急激に増加しているため、供給が逼迫しています。

更に、世界的なクエン酸需要の高まり、欧米諸国に対して高値で販売できていることから、各中国メーカーは強硬姿勢で値上げアナウンスをしてきている状況です。

上記、原料事情と需給バランスを背景とした大幅な再値上げが断行されています。

(改定価格) +50円/Kg

※各メーカーによって改定幅は違いますが、ほぼこの価格でアナウンスが入っております。

(実施時期) 2021年11月1日納入分より

以上

クエン酸

再値上げの動き本格化

生産潤沢でなく、コスト高追打ち

クエン酸相場は、原料トウモロコシを始め副資材や物流費などの高騰に加え、メーカーの生産制限などを背景に玉繰りが悪化しており、再び値上げの動きが本格化している。今春には50円/kgの

50〜70円/kgの価格は正が進められていくことになりそう。先行き受給はさらに悪化していく可能性が高く、来年早々にも再値上げに向かうことも考えられる異常事態になっている。

現地製品価格は、原料トウモロコシの高騰などを要因として年明けから急激な高騰に向かってい

たが、今夏にはさらなる上げに転じた。工業向けなどを中心に世界的な引き合いが増加している一方で、玉は潤沢ではなく確保にも影響がはじめており、日本のサプライヤーは早急な対応を迫られている。こうした状況は

中国のクエン酸価格は、昨年の原料トウモロコシ価格の高騰を受けて価格が上昇。副資材や燃料費、物流費などのコスト高も重なり、自社による吸収が困難となった結果、50円/kg程度の値上げとなった。さらに近年は、中国で施行された環境保護法により、継続的な投資が難しい中小メー

カーでは安定的な生産ができずにいる。現在も国や地方自治体による厳しい現地調査が行われており、なかには稼働制限がかけられるケースも散見されるようになってきた。今夏にもこうした調査が行われたとの情報もあり、中国メーカーは生産量を大幅に増やすことが難しい状況下にある。

現地製品価格は昨年と比べて2倍以上に跳ね上がっていることから、近く

現地製品価格は、原料トウモロコシの高騰などを要因として年明けから急激な高騰に向かってい

る。今夏にはさらなる上げに転じた。工業向けなどを中心に世界的な引き合いが増加している一方で、玉は潤沢ではなく確保にも影響がはじめており、日本のサプライヤーは早急な対応を迫られている。こうした状況は

中国のクエン酸価格は、昨年の原料トウモロコシ価格の高騰を受けて価格が上昇。副資材や燃料費、物流費などのコスト高も重なり、自社による吸収が困難となった結果、50円/kg程度の値上げとなった。さらに近年は、中国で施行された環境保護法により、継続的な投資が難しい中小メー

カーでは安定的な生産ができずにいる。現在も国や地方自治体による厳しい現地調査が行われており、なかには稼働制限がかけられるケースも散見されるようになってきた。今夏にもこうした調査が行われたとの情報もあり、中国メーカーは生産量を大幅に増やすことが難しい状況下にある。

一方で、新型コロナウイルスの影響から他国のメーカーも思うような生産ができず、世界需要の60%を賄う中国メーカーへの引合いが殺到。そのため、需給バランスが大きく崩れたことがタイト感を強める要因にもなった。こうした状況は長期化する可能性も高く、中国のクエン酸価格はさら

に上昇する可能性も否定できない。日本のサプライヤーでは、自社で吸収できない状況にあり、安定供給の側面からも値上げを実施していくことが濃厚となってきた。

昭和電工

グリシン価格を改定

原料費・物流費高騰が背景に

昭和電工は、グリシン価格についてキロ当たり50円以上の値上げに乗り出した。今回の値上げの背景は、原料価格の上昇、包装材など諸資材の費用増加、物流費の高

騰、さらには製造設備の老朽化による修繕費・維持投資費用の増加などが影響している。近年これらのコスト上昇に対し、自助努力だけで製品価格やサービス水準の維持が

困難な状況が続いていたが、このたびの価格改定を今後の事業安定化につなげていく。価格改定は9月16日出荷分より適用される。グリシンは、最近10年

で原料価格の上昇をはじめ、物流費や人件費などが上昇する一方、十分な価格改定が行えず、同社では2014年にキロ50円、19年に30円の価格改定を実施してきたが、これらのコストを十分に吸収できていない。状況には至っていない。そこで、今後の事業継続性、製品の安定供給などを目的に、2年ぶりの価格改定を決定した。すでにアナウンスを開始しており、グリシンの需要者間では、近年の世界的な原料価格の上昇などを背景に、改定後の価格は比較的スムーズに受け入れられつつある。

グリシンの市況について

では、国産グリシンは供給・価格ともに比較的安定している一方で、中国産グリシンは、昨年末頃から原料価格の上昇などの影響で、価格高騰と玉繰りの難化などから混乱が見られている。中国品の価格高騰の背景としては、主に酢酸やアンモニアなどの価格上昇や、除草剤原料としての需要の増加などが挙げられる。特に除草剤原料としての需要が世界的に急増しており、食品用途のグリシンについては玉不足に陥る状況も見られている。同社では、こうした動きを視野に、ユーザーへの安定供給体制を強化していく考えだ。